

記入例

事例研究（検討）提出シート

事例の報告にあたっては、特定の個人を識別できる情報について最大限の改変を行う等、十分な配慮をお願いいたします。

事例提出者 氏名	〇〇 △太郎	所属先名	高次脳機能障害支援センター	
事例概要	退院時から関わりを開始。復職を目標として他機関と連携し、生活支援や家族支援を行っている事例。			
■病名	■性別	男性	■年齢	55歳
脳出血（左前頭葉～頭頂葉の皮質下出血）	■発症年	(20××年○月△日) <input type="checkbox"/> 不明		
■相談経緯				
×年に自宅にて、脳出血を発症。 <input type="checkbox"/> 急性期病院から△回復期病院に転院。 高次脳機能障害の診断があり退院時に病院のケースワーカーから相談依頼。				
■援助対象者についての情報				
◇ 直接把握した本人（家族）の情報				
体に関すること 身体状況、ADL（食、排泄、入浴）など 右上下肢麻痺、右側半側空間無視、ふらつきはあるが独歩可能。ADL 自立。 指示や声掛けがあれば、簡単な炊事や洗濯ができるが、途中でも誰かの確認や声掛けがないと抜けや中途半端な部分が発生する。 声掛けがないと一日中テレビを見て過ごす。 退院後も継続してワーファリンを服用。 入院時に神経心理学的検査が実施されている。		障害状況 <input checked="" type="checkbox"/> 記憶障害 <input checked="" type="checkbox"/> 注意障害 <input checked="" type="checkbox"/> 遂行機能障害 <input checked="" type="checkbox"/> 社会的行動障害 <input type="checkbox"/> 易怒性 <input checked="" type="checkbox"/> 対人技術拙劣 <input checked="" type="checkbox"/> 感情コントロール <input checked="" type="checkbox"/> 意欲低下 <input type="checkbox"/> 病識欠如 <input type="checkbox"/> 脱抑制 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 失語症 <input type="checkbox"/> 失行 <input type="checkbox"/> 失認 ～下記に具体的なエピソードを書いて下さい。 (生活状況や検査結果など分かる範囲で構いません) ・妻が家事について指示をして出勤すると、自分の脱いだ服だけを片付けて家族の分はそのままになっている。 ・ご飯の準備を頼むと、ご飯は炊けているが米びつの蓋はあいたままであり、流しのシンクに米が散乱。 ・野菜を言われた通りなら切ることは可能。あいまいな指示では理解が難しい。 ・妻からの声掛けがないとずっとTVを見ている。		
心や気持ちに関すること（家族とのコミュニケーションなど） 常に声掛けが必要で自発的に活動することは難しい。自己判断も困難で、すぐに人に頼る。 1対1の会話はおおむね問題なく可能だが、自発的な意思表示はあまりなく、3人以上の会話についていけない。聞かれたことには答えることができる。 真面目な話でも笑っていて深刻に受け止めないことがある。 働きたいと希望しているが「前と同じ仕事は無理」と本人も認識している。		○ WMS-R：一般記憶 104 （言語性 106、視覚性 98） （作動記憶 97、処理速度 84）		
社会的側面に関すること（経済状況など） 妻、次男と三人暮らし。現在の収入は、本人の傷病手当、妻のパート収入、次男の収入がある。 回復期入院中に、現在の経済状態に見合う家に転居した。仕事は休職中で復職出来る可能性があるが、会社側は「前と同じように治ったら戻ってきてほしい」と希望している。 車の運転は医師に止められているため、入院中に公共交通機関利用の練習をしたが、目的地を見つけられなかった。退院後、自宅近くの散歩を日課にしているが迷うことなく1時間程度散歩できている。		○ リバーミード行動記憶検査 標準プロフィール得点 16/24 スクリーニング点 5/12 ○ CAT仮名 (105/114) 所要時間 87.8秒 聴覚性検出課題 44/50、SDMT 達成率 38.2% ○ B A D S 総合プロフィール得点 18点 年齢補正標準化得点 98点 ⇒判定は平均レベル		

■連携機関	
<input checked="" type="checkbox"/> 病院 <input type="checkbox"/> 行政窓口 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 作業所 <input type="checkbox"/> 介護保険事業所 <input type="checkbox"/> 滋賀県立むれやま荘 <input type="checkbox"/> 県立リハビリテーションセンター <input type="checkbox"/> その他（	<input checked="" type="checkbox"/> 働き暮らし応援センター <input type="checkbox"/> 生活支援センター <input type="checkbox"/> 計画相談事業所 <input type="checkbox"/> 就労移行事業所 <input checked="" type="checkbox"/> 滋賀障害者職業センター <input type="checkbox"/> 家族会（脳外傷友の会 しが） <input checked="" type="checkbox"/> 高次脳機能障害支援センター)
■アセスメント	
<p>・家で1人で留守番することができ、自己判断で危険な行為やルールを逸脱するようなことはないが、日常生活においては声掛けが必要。</p> <p>・医師からアドバイスを受けた散歩は日課として取り組めているため、決まったスケジュールがあれば取り組める。</p> <p>・具体的な指示があれば家事などが可能だが、細かい部分まで丁寧に気を配ったり、最後まで1人でやりきることは難しい。</p> <p>・記憶面では、繰り返すことで新しいことも覚える事ができるため、環境の構造化や手順書を活用することで、できることが増える可能性がある。</p> <p>・本人に復職の希望はあるが、以前と同じ仕事は難しいと感じている。</p> <p>・ふらつきは少なくなっているため外見からは配慮すべき部分が見えにくく周囲に本人の状況が理解されにくい可能性がある。コミュニケーション面でも、複雑な内容や複数人との会話ではついていけない場面もあるため、職場で配慮すべき部分や業務の進め方について検討し、伝えていく支援が必要。</p> <p>・家族との関係性については、妻は夫の状況が受け止められず、イライラし暴言を吐くこともある。一つ一つ指示が必要であったり、手続きや判断することの負担が妻に移ったことによるストレスで疲弊している。妻の負担軽減や心理的サポートをしていく必要がある。</p> <p>・現段階では経済的なサポートは急がれてはいないが、経済状況に合わせて転居されるなど環境の変化が生じているため、情報提供や見通しをもった支援が必要と思われる。</p>	
■支援課題	
<p>・就労に関する支援 働き暮らし応援センターや職業センターと連携し、職場に本人の状況を伝え、働き方や業務内容についての環境調整を行う。 復職以外の働き方についても本人・家族に情報提供を行い、検討を行っておく。 復職するための訓練の場が少なく、本人の希望に合う場所がない。また、復職を前提としていることや、ある程度の日常生活を送れているため、積極的に生活支援センターや市町に関わってもらいにくく福祉サービスの利用が具体化しにくい。</p> <p>・日中の生活に関する支援 日中のスケジュールを考え、散歩や家事の継続、体力の向上や健康の維持を行う。また、職場でスケジュール表や指示書で業務が行えるように、家庭内で練習できるようにする。 日常生活のほとんどを自分でできており、ヘルパー等による家庭内の支援がしにくいいため、家族以外に高次脳機能障害を補助するためのツールが定着するための支援ができる人がいない。</p> <p>・家族に関する支援 家族へ疾病教育を行う高次脳機能障害の理解や対応方法について学ぶ機会をもってもらおう。 また、他の当事者家族と話す機会を持ち、不安や困り感について共有できるようにする。 家族会が遠方で参加しにくく、圏域内で当事者・家族が集える場がない。支援者向けの研修会はあるが、家族向けの研修会はほとんどない。</p> <p>・その他 手帳や年金の申請は行われていないため、申請可能な時期に合わせて医療と連携し、申請・取得のサポートを行う。 主治医は「日常生活に支障がない程度に回復している」と判断しており、精神の診断書は書けないと言っている。 高次脳機能障害を理解して、診断書を書いてくれる医師が少なく、転院や新たな病院への受診が必要で家族に負担がかかってしまう。</p>	
■備考	
特になし	

※この様式は、ホームページにてダウンロード可能です。アドレス <http://glow.or.jp/facility/>

提出期限：令和4年11月12日研修当日持参

ご不明な点があれば事務局まで遠慮なくご連絡ください。（担当： 田邊・小西川・佐藤）